

平成 17 年度環境科学センター研究推進委員会指摘事項への対応

課題名 事業所周辺における大気環境リスクの推計に関する研究

主な指摘事項	環境科学センターの対応
<ul style="list-style-type: none"> ○ 研究成果の報告の際には、一般の住民に対して分かりやすい情報提供のあり方について配慮して欲しい。 ○ 着目する有害化学物質の種類が十分かつ妥当であるか絶えず留意し、根拠を明確にしておくことが望ましい。 ○ 室内外の濃度の差がリスク算定上どの程度の影響を及ぼすのか、確認しておく必要がある。 ○ 一日の大半を県外で過ごす県民などの場合や、昼間と夜間の人口が著しく異なる地域での曝露評価の算定結果報告の際には、評価の前提の説明など工夫が必要である。 ○ 対象物質の選定理由を明確に説明する必要がある。 ○ 大気環境リスクの推計にあたっては、幾つかの仮定・条件が設定されていると思われるので、まとめの際にはこれらを明示し、今回の手法が正しく用いられるようにして欲しい。 ○ 可能であれば、最終的なデータの信頼性や誤差についてのコメントを添付して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地理情報を活用して具体的に濃度やリスクの分布を示していくとともに、曝露人口の空間的な集計範囲も学区や自治会などを検討していきます。 ○ 経済産業省等で行なわれている PRTR 対象物質に関する初期リスク評価結果と県内の PRTR 排出量および県条例による安全性影響度評価結果を参考に、今後の着目すべき化学物質の選定にあたります。 ○ リスク（＝有害性×曝露量）を評価する際の曝露量を評価する上で、物質によっては、濃度や曝露時間を目安にこれらの差を考慮する必要があると思われませんが、今回の対象化学物質は、PRTR データでは家庭から排出はありませんが、文献調査により、室内の濃度の確認を行なうこととします。 ○ 地域リスク評価（H15-16 特定研究）では、3次メッシュの昼間人口と夜間人口を平均したものを任意のメッシュの平均人口とした。今回も同様の手法を建物人口に適用して建物ごとの平均人口で曝露人口の算出を行なう予定です。これらのことは報告書に詳細に記載することとします。 ○ 対象物質の選定理由は報告書に詳細に記載することとします。 ○ リスク推計における仮定や条件等は、大気濃度推計モデルの仮定や利用条件、有害性におけるユニットリスクの報告書に詳細に記載することとします。 ○ 大気濃度推計結果に関しては、本研究にて行なう事業所周辺環境濃度調査との比較を行ない、報告書にまとめることとします。